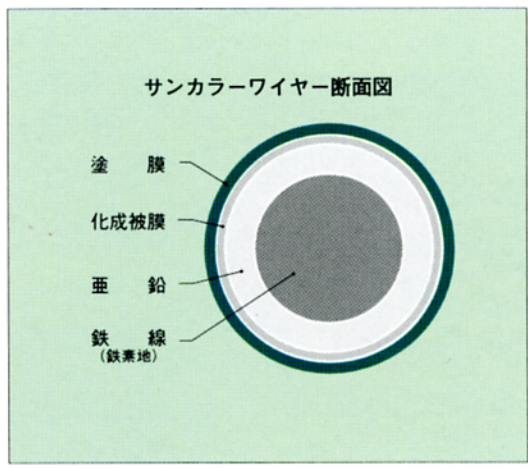


● サンカラーワイヤー

キルド鋼線材を使用した亜鉛メッキ規格鉄線に特殊な合成樹脂塗料を完全に密着塗装焼付けしていますから湿気の多い山間部、塩分の多い海岸地帯や重工業地帯などの酷しい腐食環境の所では最適です。

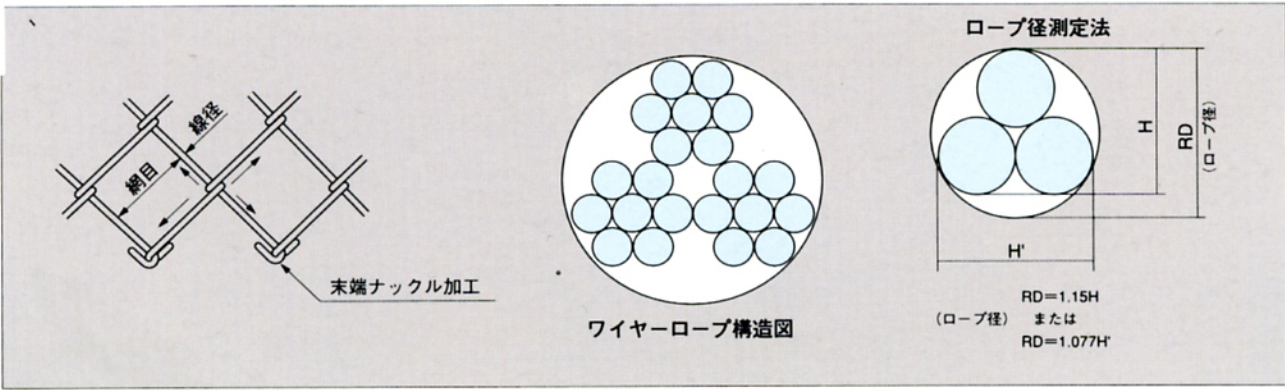
特殊亜鉛メッキ製品 (400g以上) もあります。



◆ 菱形金網規格表

タイプ	線径 (mm)	目合 (mm)	重量kg/m ²
SSN- SSM- 500型	タキロン3.2φ(2.6φ)	50	2.1
	3種亜鉛 2.6φ	50	2.2
	サンカラー 2.6φ	50	2.2
SSN- SSM- SSP- 1000型	タキロン4.0φ(3.2φ)	50	3.2
	3種亜鉛 3.2φ	50	3.4
	サンカラー 3.2φ	50	3.4
SSN- SSM- SSP- 1500型	タキロン5.0φ(4.0φ)	50	4.8
	3種亜鉛 4.0φ	50	5.1
	サンカラー 4.0φ	50	5.1

(タキロン鉄線 () 内は芯線を表示しています) (目合は55^m/mもあります。)



■ ワイヤロープ (JIS-G-3525)

外径 (mm)	構造	メッキ付着量kg/m ²	破断荷重 T	重量 kg/m
8	3X7 G/O	110	3.52	0.3
12	3X7 G/O	165	8.04	0.5
14	3X7 G/O	190	11.1	0.7
16	3X7 G/O	220	14.2	0.9
18	3X7 G/O	300	16.0	1.1

落石防止網を曲線部に設置する場合の金網積算

〈注〉 曲線路の場合には、金網の重ね合わせがさらに大きくなり、次のような数値になります。

ロックネットを右図のような扇形の部分に架設する場合には、

$$\text{実際の面積} = \frac{\ell + \ell'}{2} \cdot h$$

であるのに対し、使用する金網は長方形であるため、上部の重ね合わせが大きくなり、金網の所要面積は $\ell \cdot h$ となります。そのため

$$\ell \cdot h - \frac{\ell + \ell'}{2} \cdot h = \frac{\ell - \ell'}{2} \cdot h$$

の金網が、実際架設面積よりも余分に必要ですので、曲線路に設置する場合には、以下に示す (A) または (B) の方法で積算して下さい。

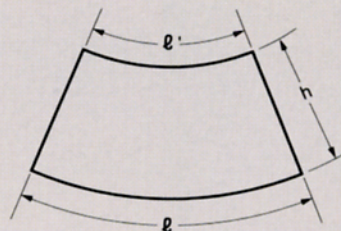
(A) 積算および検測の際には

(円弧の最大長さ ℓ) \times (法長 h)
によって、架設面積を算出して下さい。

(B) 実際の架設面積によって積算および検測が行われる場合は、材料および工事費の単価を

(標準単価) \times (重なり係数 K)
として積算して下さい。

法面の展開図

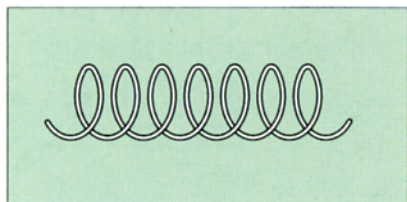


重なり係数

	10m未満	10~20m	20~30m	30~40m	40~50m	50~60m	60m以上
50m未満	1.1	1.2	1.3	1.4	1.6	1.8	1.8
50~60	1.1	1.1	1.2	1.3	1.4	1.6	1.7
60~70	1.1	1.1	1.2	1.3	1.4	1.4	1.6
70~80	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3	1.4	1.5
80~90	1.0	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3	1.4
90~100	1.0	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3	1.4
100~110	1.0	1.1	1.1	1.1	1.2	1.3	1.3
110~120	1.0	1.1	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3
120~130	1.0	1.1	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3
130~140	1.0	1.1	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2
140~150	1.0	1.1	1.0	1.0	1.1	1.2	1.2

●結合コイル (JIS G 3537)

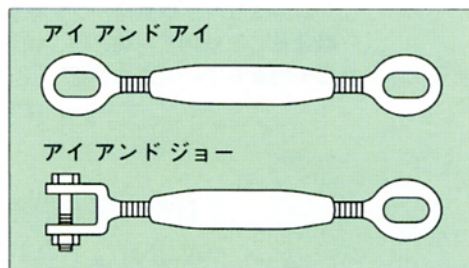
亜鉛メッキ硬鋼線をスパイラル状に加工し、金網とロープの結束に使用します。鋼線径は金網の素線径により決めます。



●ターンバックル (JIS G 3101)

ポケット式支柱吊ロープ及び天端横口ロープの緊張を取る為に用います。表面は熔融亜鉛メッキ処理を施し、耐触性に優れております。

形状は25φ×350 16φ～18φ用
22φ×350 12φ～14φ用



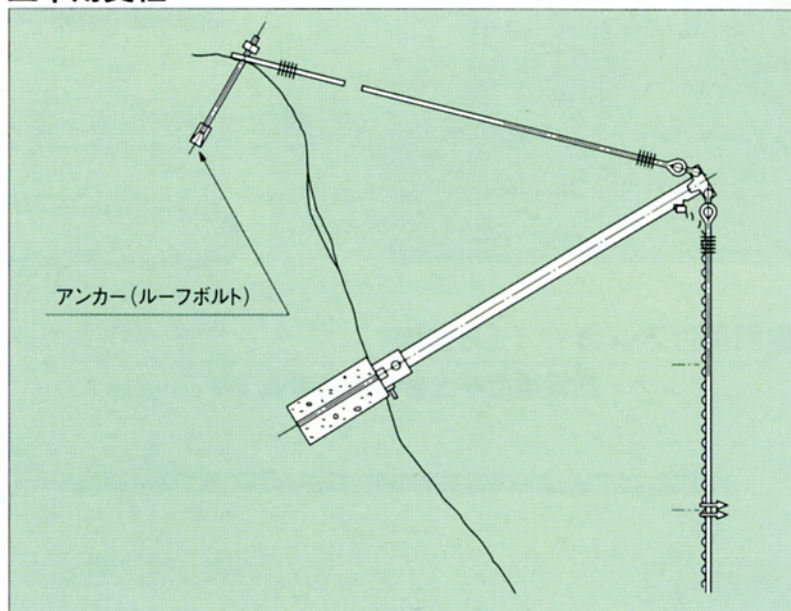
■ポケット式支柱

斜面または法面に設置し、法肩より上の落石をカバーする為に使用します。法面の状態により土中用・岩部用の2種があり、支柱の高さも各種揃えてあります。

●土中用支柱

法面が土砂の場合、支柱を土中用アンカーに埋込んで使用します。

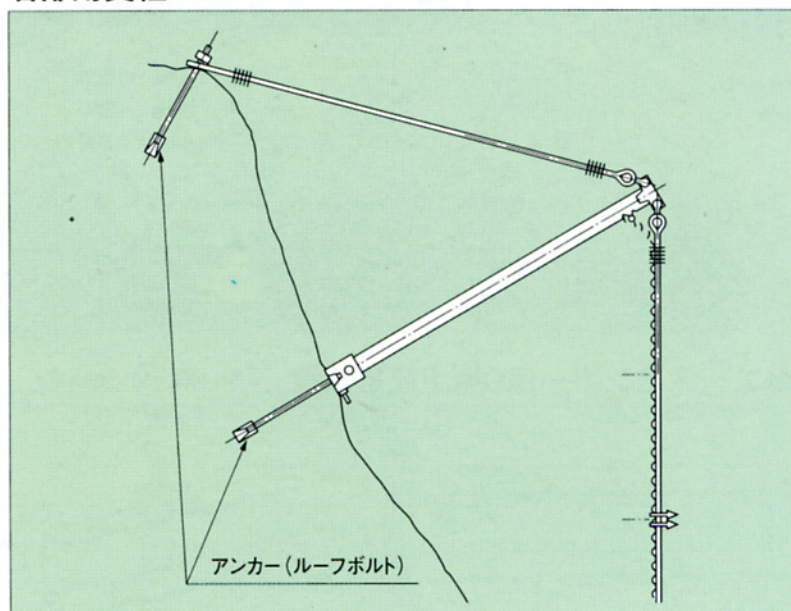
土中用支柱



●岩部用支柱

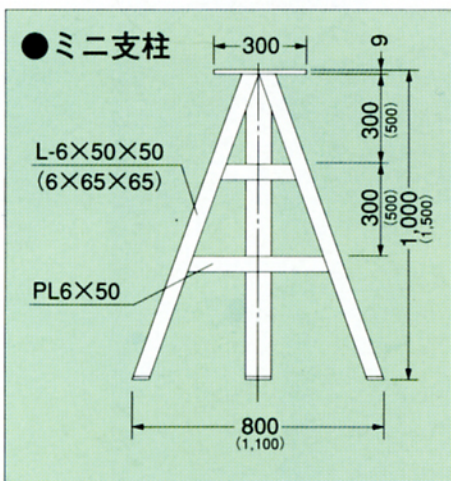
法面が岩部の場合岩部用アンカーで支柱を固定して使用します。

岩部用支柱



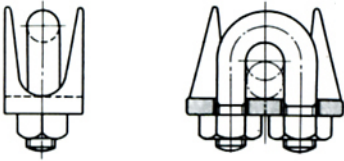
■ミニポケット式支柱

●ミニ支柱

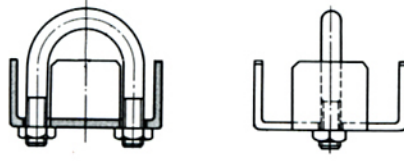


アンカー(ルーフボルト)

●ワイヤクリップ

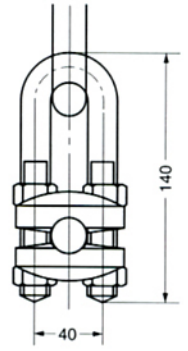


●クロスクリップ



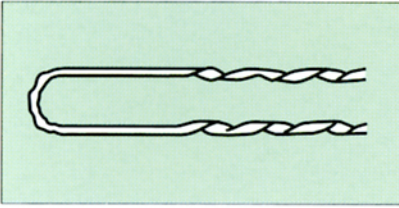
クロスクリップは縦ロープ、横ロープの組合せにより16φ~18φ用、12φ~14φ用を用意しています。

●三方クリップ



●巻付クリップ (JIS G 3506)

ワイヤロープ末端部にワイヤクリップの代わりに使用します。折返し加工が不要の為、施工費が軽減されます。



●ルーフアンカーボルト (岩盤用)



●フックアンカーボルト (軟弱地盤に使用して下さい。)

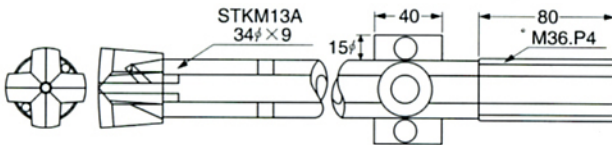
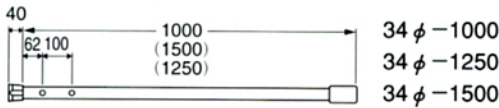


●羽根付アンカー (土砂部用)

アンカー設置場所が土砂の所に最適です。



●エースアンカー 1000型 & 1250型 & 1500型

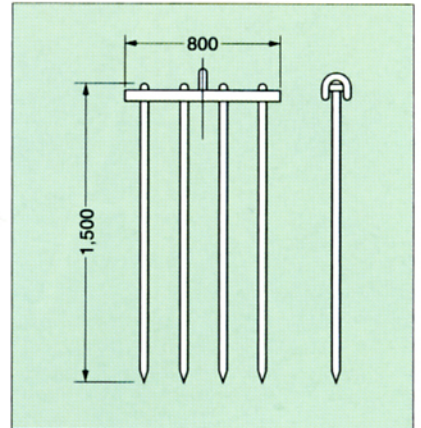


●組立アンカー

20cmおきに25φ×1500の鋼棒を4本打込み、約3tの耐力が得られる様設計されています。

形状寸法

4-25φ×1500 [-100×50-800]



●エースアンカー用C型土圧抵抗板 4.5-1000 (50×200×100)

